

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

日時：令和7年8月7日（木）13：30～15：30

場所：奄美市役所 名瀬総合支所8階委員会室

1. 開会
2. コアメンバー委嘱
3. 副市長挨拶
4. 令和7年度コアメンバー自己紹介（敬称略、五十音順）

所属	氏名（ふりがな）
奄美市校長協会 会長 （奄美市立小湊小学校・校長）	池野 吉寿 （いけの よしひさ）
株式会社マングローブパーク公社 管理課長	稲元 義人 （いなもと よしひと）
大正大学 地域構想研究所准教授	岩浅 有記 （いわさ ゆうき）
奄美大島観光協会会長 （株式会社大島紬村代表取締役社長）	越間 得晴 （こしま とくはる）
世界自然遺産推進共同体 （日本航空㈱鹿児島支店奄美営業所）	近藤 志保 （こんどう しほ）
環境省 奄美群島国立公園管理事務所 国立公園管理官	境田 清一郎 （さかいだ せいいちろう）
奄美市議会議員	崎田 信正 （さきだ のぶまさ）
奄美野生動物医学センター センター長	新屋 惣 （しんや そう）
NPO法人アマミーナ	徳 雅美 （とく まさみ）
奄美大島エコツアーガイド連絡協議会	中岡 省吾 （なかおか しょうご）
鹿児島大学 法文学部講師	馬場 武 （ばば たけし）
合同会社地域計画あまみ 代表	濱田 政信 （はまだ まさのぶ）

1年間よろしくお願いします！！

5. 事務局（世界自然遺産課）紹介

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

6. 座長選任

- ◆座長 鹿児島大学 法文学部講師 馬場 武氏
- ◆アドバイザー 大正大学 地域構想研究所准教授 岩浅 有記氏

7. 議事

(1) 世界自然遺産プラットフォーム概要説明及び年間スケジュール

◆世界自然遺産保全活用プラットフォームについて

① 趣旨

世界自然遺産を保全することにより持続的な恩恵を享受し、より豊かな暮らしが営まれる社会を創ることを目的として、公民連携の場（プラットフォーム）を立ち上げ、多様な主体による自由な議論によって、市民参加型の機動的な政策実現を目指す。

② 活動内容

- 多様な主体の情報交換や主体的な連携・協働を促進する協議・交流の場。
- 得られた成果は各人の活動や市民参加型の政策として参考にする。
- コアメンバーは14名以内とし、会議は年3～4回程度開催、事務局は世界自然遺産課。

◆令和7年度の会議について

① テーマ

「シマッチュ」それぞれが「自然・暮らし・文化」との
「つながり」を実感できる取組を考える。

※シマッチュ：奄美に関わる全ての人々

② 議論の流れ（想定）

- つながりを実感するとは、を考える。
各分野の方々の取組を情報共有・意見交換
- 民間・地域・学校・行政など各分野で取組みできるものを考える。
- 取組みを後押しする施策を検討
- 「つながり」を実感できる各分野の取組、施策検討結果を提言としてまとめる。⇒市民へ共有、施策へ反映

③ 会議日程案

8/7（木）、10/24（金）、11/19（水）、1/20（火）の4日間



奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

(2) ワークショップ

◆ワークショップ開始前に馬場座長より

本日は、各分野のエキスパートの方が集まっています。

「つながりを実感するとは、を考える。」について、それぞれのお立場からのご意見や考えを十分に引き出すために、昨年度と同様にワークショップ形式でお話をお伺いできればと思っています。

昨年度のプラットフォームのそもそものテーマは「来訪者の満足度をより高めるためにはどうしたらいいのか」というテーマでした。

しかし、皆様のお話を聞いていくと、

- ①世界自然遺産は奄美にとってだけではなく、この地球に住む人々全てにとって唯一無二の地域資源である。
- ②世界自然遺産は経済的な価値だけではなく、社会的な価値を生む。
その複合的な価値を生む価値創造の源泉だと言える。
- ③自然と人々との関係性によって豊かな共同体が生まれて、そして保全や継承つまり、また改めてこの価値創造の源泉が豊かになっていく。

⇒これら①～③の好循環をつくる必要がある。

そのためには、様々な人々と、そして自然と、そしてこの地球に生きる全てのものとの「つながり」というのがとても重要なキーワードになるとの大きな話に落ち着きました。

本日は「つながり」について、皆様のお立場や個人として

●みんながつながりを実感している状態とは？

●つながりとは一体何か？

⇒つまり、「我々が目指すべきありたい姿」を皆様とお話しできればと思います。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

◆3班に分かれてのワークショップ開始

STEP 1. 「つながり」から各自が連想する言葉を書き出す。

●つながりとは何か

●このようなつながりが幸せや豊かさを感じる 等

STEP 2. 書き出した言葉と「世界自然遺産」を中心に置いたときの
関連性を考え、各立場での取り組みの共有や意見交換。

STEP 3. 各グループの発表と他グループからのコメント。
グループ間の相互作用。

◆各班からの発表と他の班の委員からのコメント

A班：池野委員、稲元委員、新屋委員、事務局職員



そもそも世界自然遺産に関して地元の方も観光の方も十分に理解していないのではないかという意見がありました。具体的には「世界自然遺産地域がどこにあるのか」という点。空港のある北部だけ満喫される観光の方もいると思うが、実際の遺産地域のことを知らずに帰られたり地元の方も理解していなかったりするのではないかと、ということが話に挙がりました。

それから、世界自然遺産を目的として来訪される方というのが、実は少ない。漠然とリゾートとして来る方もいるのではないかとという意見がありました。また、他の世界自然遺産地域と比較して、外国人の来島が余り増えていないということも聞きまして、しっかりと「奄美の何が世界自然遺産なのか」ということを周知する必要があるというのが1点目です。

それから2点目は、もともと島にいた方とIターン者を比べてみると、実はIターン者の方が、「世界自然遺産」ということに対して積極的な場合もあるのではないかとという点です。地元民は、自然が当たり前過ぎて良さに気づけていないことがあると思います。そのため地元への周知が必要であるのと、例えばあまり興味がない方に関しては、数値化することも大事かと思います。具体的に「世界自然遺産でこれだけ雇用が生まれます」とか、「地域が活性化します」など、そうしたことを伝えることも必要だと思います。

それから、教育や啓蒙も大事だという意見がありました。例えば、気軽に見られる固有種の図鑑を作って配布する、写真展を開催する、子どもたちも参加できるようなイベント、などが挙がりました。最後に「もともとある自然をどう活用するか」というところがまだ不十分じゃないかという意見がありましたので、そうした取り組みが必要だと思います。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

他班の委員からのコメント

A班が話されたことは、頭では分かりながらも、現実として実行されてないとか、教育の問題も出ましたが、外国人が少ないという本当の意味での「奄美大島の遺産登録になった価値」というのが伝えられていないということだと思う。

また、伝えるのも人だし壊すのも人だし、見学や来島されるのも人ですので、**やはりいかに「人」を育てるか、教育から含めて取り組む**ことが、遺産登録になった地域の価値を高める。

高付加価値化とかいう言葉がよく出るが、やはり、それは「人」です。すばらしい自然があるといってもそれは高付加価値でそこに付加価値をつけるのが「人」ですから、やはり「人」がいかに大事かということをお互いに共通認識を持ちながら取り組んでいけば、「奄美は人が良い」とかよく言われるじゃないですか。「人が良い」と自慢して言う方も多々いるし、私個人もそう思っています。そういった人は、やはり奄美ファンになっている。

「また行きたい」とリピーターになる方は人に会いに来るのですよね。「景勝、あやまる岬がきれいだからまた行こう」とは思わないのですよ。やはり「人」にファンはつくしリピーターは「人」につくものですから、いかに人を育てるか。

今まで先人たちが守ってきて、遺産登録にもなったわけですので、「ハブも神様、山も神様、海も神様」という、**自然を畏れ敬う精神**というのが奄美群島にほかの地域よりも根強く残っていると思いますので、そういったものを活かすような形でどう伝えるかを、ガイドをされている方は当然ですが、フロントにいるスタッフ達も伝えていくことができればいいのかなあと考えております。



来訪者や住んでいる方が、世界自然遺産の価値をどこまで分かって来訪したり住んだりするのか、というところがあると思うので、自分の住んでいる島がすばらしい島なのだと気づきになるような、そうした環境を作ることができれば、お互い幸せなのかなと思いました。

世界自然遺産を意義あるものとして感じるためには、**「奄美ってすごい島だよ」というところをよりPRしていくことも必要ですし、やはり生活部分で、世界自然遺産に登録されたから暮らしが豊かになるという、豊かさを併せ持つてくると、幸せって大きくなるのかなと**考えました。

今、先ほどお話ししていただいた、「世界自然遺産をどうやって皆さんにこれから知っていただくか」というのがとても重要になるのかなと思います。奄美はリピーターの方がとても多い。

というのが、私たち昨年、助成金をいただいて「しまめぐり割」というツアーを展開しているのですが、その中で、「一人参加の40～50代男性が多い」という統計が出ております。

2～3人での参加が多いのではないかと考えていたが、一人参加のある程度の年齢のお金を持っている方が多かったということは、やはり**奄美独自の魅力を求めて来られると思うので、そうした魅力の価値を一緒に高めていくことが重要だ**と発表を聞いてあらためて感じました。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

B班：徳委員、越間委員、境田委員、事務局職員

「つながりを感じるのとは何か」ということで、「奄美の自然」「奄美の祭り」「文化」「お酒」等、そうした言葉がみんなから出ました。

世界自然遺産ということ、「私たちは何をすべきか」というところまで話が進みました。私たち大人が話していて、なおかつ多様性とは何かということを意外と知らない。奄美が世界自然遺産になった理由は奄美の自然の多様性であると。「では多様性とは何か」というところも分からないわけです。それで結局は、私たちが1番やらなければいけないことは「教育」ということで、小さい子どもたちに小学生のときからそうしたプログラムを作って、奄美の自然、奄美の世界自然遺産について、学ばせる。「なぜ自然遺産になったのか」「なぜ価値があるのか」ということを、1番頭が柔らかい時期に教える。これは、理想ではなくて、すぐにでも学校教育の中で始めていただきたいです。そうするとこの子どもたちが大きくなったときに、ずっとその気持ちを持ち、また研究的な気持ちが広がって学びが続いていくのではないかと。それで、私たち自身が、奄美の世界自然遺産の価値というのをきちんと理解できるのではないかと思います。

また、インバウンドや海外の対応で私たちは何をやるかということまで話が広がったが、やはり島の人たちに対しては学校教育の中できちんと世界自然遺産の価値を話す、教育すること。外から来る人たちに対してはどうすべきかと考えたときに、やはり情報が少ないです。

外国人が市役所とかに行ったときに、「この窓口さえ行けば全てが分かる」という窓口がないです。やはりそういうものを作るべきじゃないかと思います。

またフェリーでも多くの方がいらっしゃいますが、少なくとも、中国語・韓国語・英語の三か国語のツアーガイドが必要。私の知り合いもNPOを作っており、皆さんすごく頑張っているが、やはり足りない。

あと、そうした人たちを受け入れるための環境も必要。私が子どものときにはすごく華やかな場所だったアーケード街がどんどん寂れているため、あの辺の価値というものを、まず、島の人間に対する価値を共有するための教育が必須。そして外から来る人たちにとっては情報を共有するための窓口が必要であると思う。そういうことによって、島がなぜ世界自然遺産になって価値があるのかということ、島の人と外から来る人も、情報をシェアすることによって、ますます奄美の価値が広がっていくのではないかと思います。



B班の発表



奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

他班の委員からのコメント

B班がおっしゃったように、私たちの中でもちょっと話題にしたのが、やはり子どもたちですね。子どもたちに世界自然遺産の良さを分かってもらうためには、それこそ小さいうちから、学校も含めて、やはりそういう学びがあったほうがいいのではないかなと感じました。

私は以前の赴任地が屋久島でしたが、屋久島は年間通して子どもたちが自然遺産について考えて活動し、最終的に発信をするというところまでやっていました。やろうと思えばできないことはないかなと思っています。

今、私は小湊にいますが、少ない子どもたちの中で、地域との触れ合いを重視しながら活動しているわけですが、今、ふと思ったときに、子どもたちも情報をあまり知らないというのがあります。そのため、子どもたちが一生懸命、小さいときから学んでいくことによって島の良さに気づいたり、もっとこういうところがあるよということをいろいろなところに発信したりとか、そういうふうにできていけば本当にこれはすばらしいことなのではないかな。

それでも、我々が仕掛けていかないと子どもたちが自分たちでやろうとは、なかなかやってくれないところだろうと思うので、これはちょっと仕掛けをしていくことが大切だなと思うことと、やはり情報発信、これについてもやって、いろんな人たちに知ってもらうということが重要なかなと感じるところでした。



もともと奄美の世界自然遺産登録を目指すのは、もう10数年前からやってきて、1回仕切り直しをして、登録されているわけですね。そのときから奄美の自然は豊かだということで登録を目指してきたわけですが、先ほど報告にもあるように、まだまだ地元の人に知られていないということが、10数年前から目指してきた状況が現実に残っているということです。

人口もどんどん減っていくし、そうした状況の中で島づくりとしてもどうしていくのかというところにもつながっていくのかなと思います。教育の問題も出ておりましたが、奄美は独特の島文化がありますから、先ほどリピーターの方の話もありましたが、人のつながりで来るということで、そうした意味では奄美独特の文化をどう継承していくのかということも重要かなと感じております。

1番言いたいのは、10数年前から世界自然遺産登録を目指して、あれこれやってきたが、やはり皆さん方の今の発言にあるように、地元の人はまだ認識できていないとか、地元の人でも、世界自然遺産は奄美全体だと思っている人も少なくないです。観光客の人は世界自然遺産であるということ以上に奄美大島の観光ということで、来られるのかなと思いますけれども、世界自然遺産ですから、自然を壊さないことが1番重要かなと思いました。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

C班：崎田委員、濱田委員、近藤委員、事務局職員

つながりを意識する、1番意識できるのは何だろうと考えるとやはり祭りですね。集落ごとで踊るので、あれが1番「奄美らしさ」をシンボリックにあらわしている。また、同窓会も全国的に見ると、この島独特のつながりや文化ではないかな。そうした伝統芸能とか、行事の中にはなかなか出てこない、人のつながり・人の連携が生み出す独特の文化が、育まれてきた。さらにそれが現世だけではなく、亡くなった両親祖父母、そこへのリスペクトもあり、祭事ごともあり、それが「環境文化」という言葉に繋がり、日本で1番最初に環境文化型国立公園に指定されたのではないかな。世界自然遺産の山は、ハブがいるから山遊びせずに山が守られたという説もあるが、実際はなぜ山が守られてきたかという「神様がおりにくる山があるから、むやみやたらと遊びまわるものではない」という意識がいつの間にかあるなど、そうした環境文化が偶然、世界自然遺産登録というところまで来た。

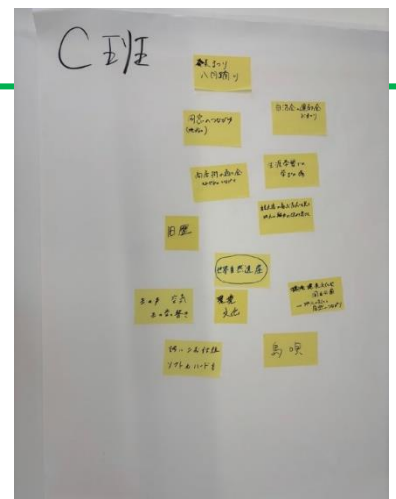
そのように発想すると、島でつながる・郷土でつながるとするのは、島の伝統行事の準備は、集落に行かないとなかなか感じるができない。各集落に行くとやはり、お盆までに、みんなで墓掃除をすとか、細々とした家の中の小さい行事がある。それらの多くは旧暦に合わせている。そうしたことから、「旧暦」もキーワードの一つではないかと。奄美の魅力を発信するときに、その魅力を出すことが、結果として「奄美は世界自然遺産になったのだな」ということを附属的に実感できるのではないかと。

やはり世界文化遺産に比べると、自然遺産は自然が好きな人が来る。文化遺産は「見てみたい」と大量に人が来る。世界自然遺産は日本全国、あと4か所あるが、そこに人を大量に入れるわけにはいかないためどうするかといったら、奄美の魅力として他の自然区域と比べると、国立公園として「環境文化型」という冠をもらっている。これは、1番の特筆すべき奄美群島の最大のメリット・魅力であると。そこを有効的にこちらの島々の環境文化に目をつけて、そのリズムに合わせて人を誘う誘導するということが大事ではないかなと。

また、世界自然遺産区域はどのエリアかということ、地元の人があまり分かっていないはずとの意見も出ました。8割ぐらいの人は分からず、おそらく、環境省の方を含めて、あとの2割だと思います。大体でいいと思う。ここから向こうは世界自然遺産になったらいいよと、その経緯を何となく分かっていたらいい。ただ、いまだに継続されている集落行事とか集落の文化、環境文化を大事にすることが、それがそのまま世界自然遺産になった魅力につながっていくと思う。やはり地元の人とのつながりや集落の文化を大事にすることが、この島の魅力を継続的に発信できる方法じゃないかなと。あとはノウハウ、ソフトハード面、いろんなアイデアをそこに注視してやっていったらどうだろうといった感じでした。



C班の発表



奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

他班の委員からのコメント

各班それぞれ発表ありましたが、同じようなところに行き着いているというのが第1印象です。その中で心に残ったキーワードが同窓会。やはり人と人のつながりを如実にあらわしている島の文化で、この前、我々も同窓会をしたらもう60歳手前なのに100名以上集まっているいろんなことをした。例えば、うちの息子は高校で金久地区の応援団長をしていたが、後輩たちが商店街の夏祭りで応援団の演舞をするからそれを見に来たといきなり帰ってきた。それが終わったらすぐ帰って、また今度は運動会の日に帰って来て応援団の演舞を見る。なぜそうしたことをするかというと、**同窓会や先輩後輩のつながりを大事にしているから**。それがずっと続いているというのは、やはりこの島で暮らした光景とか話したこと、そうした全ての風景が自分の脳裏に記憶されてインプットされて鮮明に残っているから。**島の暮らしというのが土台にあり、それがずっと同窓会として続いている。そのように思っているのも、やはり世界自然遺産を中心として、自然と暮らしと文化が複雑に絡み合っているのが、奄美の遺産の特徴**なんじゃないかなと思う。A班の発表の話になるが、そこで私が印象に残ったのが図鑑をつくらうという話で、以前、大島高校の生物部の子とお話をしたときに、我々が知らないこともすごくいろいろなことを知っている。市役所職員の前で言うのもなんですが、マリンタウン地区を埋め立てたことによって環境が変わったと。海の中の環境が変わって生態系が変わったとか、そういう食物連鎖とかそういうのも全部詳しく知っている。そういうのも含めて島の暮らしがどう変わって、その中で生態系がどう変わったとかそうしたことを図鑑にすると子どもたちもそれを読んで、こうなっちゃいけないとか、こうしていったらいいねと教育につながっていくのかと感じた。

世界自然遺産という形で話を持っていくのであれば、やはり「守らなければいけない」というのも当然、出てくる話だと思う。文化遺産という話もありましたが、例えば「この建物が世界遺産ですよ」となると、皆さんよく分かり見に行く。ただ、世界自然遺産となると、広大な土地になるため、メインがない。**自然を見に行くと言っても山の中のため、そこには足を踏み入れることができない。そうなってくると当然興味も薄れてくるのではないかと思います**。そのため、ガイドの中でも、**自然を壊さない程度にどうやってその中までちょっと入っていけるルートを作るか、見られる場所をつくっていくか、そういうのも一つの案**として挙がっているかと思います。やはりそれを行うことによってもうちょっと自然に対する意識を持っていてもらう。子どもさんにしてもそうですし、固有種がどういうものがあるのか、天然記念物の鳥もいます。どの鳥が天然記念物なのかとか、そうしたことを分かっている子どもさんも、最近は少なくなっているかと思います。カエルにしてもそうですし、いろいろいますよね。そのため、そうしたものを先ほど言った図鑑などをつくって皆さんにアピールしていく。そうしたことも興味を持っていく一つの手段になるかと考えているので、その辺も含めて、行政も含めて検討していただければと思います。うちのマングローブにしてもそうだが、看板を立てて展示もしてはいるが、やはりその数としては少ない。お客さんとして来島される方たちは余計にそういうのは分からない方が多いかと思いますのでもう少しその辺をアピールできるようなものをつくっていければ、ちょっとまた違った形になっていくのではないかなと感じています。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

◆各班の発表を受けて市民環境部長よりコメント

各グループの発表を聞かせていただきまして、今後取り組まなければいけないと思われる方向性が自分なりに行政としての部分で感じるようになりました。

特にその中で、やはり各グループ共通している部分が、「地元とか観光で来られる方が世界自然遺産の価値を理解してない」という部分。

そして、改善においては、「子どもたちに小さいうちからこの価値を教える」ということを考えていかなければいけないと思いました。

Aグループで具体的な価値の実感という部分で雇用数などを数値化していく必要があるのではないかとということも、確かにそのとおりだなと思いました。

それからCグループなどで挙げた旧暦。これは確かに奄美ならではの生活の中で大事にしている元になるところですので、こうしたところもやはり大事にしていかなければいけないかなと思いました。

そしてまた、Bグループからは来訪者への情報が少ないという意見もいただきましたので、こうした部分も取り組んでいかなければいけないと思いました。

本当に各グループからいただいた提案というのは、皆さんも含めて私ももある程度実感している部分もありましたので、今後またこれを深めていただいて、さらに具体的な取り組みとなるように、お力添えをいただければと思いますので、よろしくお願いします。

本当にありがとうございました。



奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

◆馬場座長より本日のまとめ

本日は「世界自然遺産」というものを中心に、

- どのようにつながるのか
- どのようにつながりを実感できるのか
- 理想的なつながりの状態とは何か 等

「世界自然遺産とつながり」というキーワードで皆様にお話ししていただきました。

そして、

- 世界自然遺産そのものと関わっていく
- 環境文化という特性もあるが、どう関わるのが理想なのか
- 人・コミュニティとしてどうつながることが理想なのか
- 次の世代にどのように受け継いでいくのか 等

ダイナミックなお話が聞けたと思っております。

本日は皆様から、世界自然遺産というものを中心に、

- どういうふうにつながっている状態がいいよね
- こういうふうにするべきだね

とのお話があり、それを全体で実現していくためには、取り組まなければならないです。

そこで、次の会議で皆様にお話ししていただきたいのは、

「取り組む主体は誰なのか」という点です。

実現のためには問題があり、それに取り組む主体というのは様々です。

- 公共（行政・教育）
- 地域コミュニティ・我々
- ビジネス

主要な3主体によって、実現するための問題を解決していくわけですが、公共やコミュニティが無限にリソース（資源）を持っているわけではありませんし、ビジネスだけで解決できる問題というものもありません。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第1回公民連携会議 会議録

次回10月は「どの主体でどのような取組をしていけば、世界自然遺産とつながっている状態を実現できるのか」という点を、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

「取り組む主体を公共の立場からどのように支援することができるのか」という点を最終的に提言として考えます。

皆様の日々のお仕事や暮らしの中で、

- この立場からこの問題を解決できる
- この立場からもできるな 等 様々なご意見を伺いたいと思います。

(3) その他

8. 閉会

次回の会議は10月24日（金）開催予定です。



以上。